平成 24 年 11 月 9 日
株式会社富士ピー・エス

平成 25 年３月期第２四半期決算（４月～９月累計）説明資料

当社グループは、前期が連結初年度であり、また連結子会社のみなし取得日を期末日としていることから、前期は連結損益計算書を作成していないため、前期との比較分析は行っておりません。

【当第２四半期業績の概要】

１．当社グループの受注高につきましては、土木事業は今年１月に株式会社シーピーケイを子会社化したことによるマクラギ事業の受注高は増加しましたが、主力である橋梁工事において、技術力・現場力・積算力の向上など総合評価入札方式への対応を一層強化し営業活動を展開しましたが、供給過剰状態による競争環境の激化から受注が伸び悩み、4,077 百万円となりました。

一方、建築事業はマンション事業が回復傾向にあることや政府による学校施設等の耐震化が推進されていることから、当社の独自商品である「ＦＲ板」や「パラレル構法」の営業強化に努めた結果、2,300 百万円となりました。

また、不動産賃貸事業は 235 百万円となり、全体としては 6,612 百万円となりました。

２．当社グループの売上高につきましては、株式会社シーピーケイを子会社化したことによるマクラギ事業の売上高は増加しましたが、当社個別繰越工事が前年に比べ 14 億円減少したことなどから 8,912 百万円となりました。

売上高の内訳は、土木事業 6,063 百万円、建築事業 2,733 百万円、不動産賃貸事業 116 百万円であります。

３．当社グループの損益につきましては、当社個別業績（売上高の減少に加え、工事利益率の低下などにより営業損失 40 百万円）の影響やのれん償却 9 百万円等により、営業損失 44 百万円、経常損失 53 百万円、四半期純損失 76 百万円となりました。

当第２四半期（４月～９月累計）の連結業績　（単位：百万円）

項　　目	当四半期実績
受　注　高	6,612
売　上　高	8,912
営 業 損 失	△44
経 常 損 失	△53
四半期純損失	△76

セグメント別	受注高	売上高
土木事業	4,077	6,063
建築事業	2,300	2,733
不動産賃貸事業	235	116
その他	－	－
合　計	6,612	8,912

【参考】個別業績の概要

１．当第２四半期（４月～９月累計）実績と前年同四半期実績との比較

（単位：百万円）

項　　目	前四半期実績	当四半期実績	増　　減	備　考
受　注　高	6,621	6,143	△477	３期連続の減少
売　上　高	8,671	8,542	△128	３期連続の減収
営 業 利 益（△は損失）	159	△40	△200	４期振りの営業損失
経 常 利 益（△は損失）	184	△42	△227	４期振りの経常損失
四半期純利益（△は損失）	111	△65	△176	４期振りの四半期純損失

２．セグメント別受注高、売上高、繰越高

①前期繰越高

項目	前第２四半期累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年９月30日）		当第２四半期累計期間（自平成24年４月１日 至平成24年９月30日）		増減金額	対前期比
	金額	構成比率	金額	構成比率		
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
土木事業	12,785	78.0	11,674	77.9	△ 1,111	△8.7
建築事業	3,613	22.0	3,305	22.1	△ 308	△8.5
不動産賃貸事業	－	－	－	－	－	－
そ の 他	0	0.0	－	－	△0	△100.0
合　　計	16,399	100.0	14,979	100.0	△ 1,420	△8.7

（注）「その他」は、建設資機材のリース等であります。

②受注高

項目	前第２四半期累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年９月30日）		当第２四半期累計期間（自平成24年４月１日 至平成24年９月30日）		増減金額	対前期比
	金額	構成比率	金額	構成比率		
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
土木事業	4,418	66.7	3,608	58.7	△ 810	△18.3
建築事業	1,984	30.0	2,300	37.5	316	15.9
不動産賃貸事業	218	3.3	235	3.8	17	7.8
そ の 他	0	0.0	－	－	△0	△100.0
合　　計	6,621	100.0	6,143	100.0	△ 477	△7.2

（注）「その他」は、建設資機材のリース等であります。

③売上高

項目	前第２四半期累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年９月30日）		当第２四半期累計期間（自平成24年４月１日 至平成24年９月30日）		増減金額	対前期比
	金額	構成比率	金額	構成比率		
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
土木事業	6,235	71.9	5,692	66.6	△ 543	△8.7
建築事業	2,326	26.8	2,733	32.0	406	17.5
不動産賃貸事業	108	1.3	116	1.4	8	7.6
そ の 他	0	0.0	－	－	△0	△100.0
合　　計	8,671	100.0	8,542	100.0	△ 128	△1.5

（注）「その他」は、建設資機材のリース等であります。

④次期繰越高

項目	前第２四半期累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年９月30日）		当第２四半期累計期間（自平成24年４月１日 至平成24年９月30日）		増減金額	対前期比
	金額	構成比率	金額	構成比率		
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
土木事業	10,968	76.4	9,589	76.2	△ 1,378	△12.6
建築事業	3,271	22.8	2,872	22.8	△ 398	△12.2
不動産賃貸事業	109	0.8	118	1.0	8	8.1
そ の 他	－	－	－	－	－	－
合　　計	14,349	100.0	12,580	100.0	△ 1,768	△12.3

（注）「その他」は、建設資機材のリース等であります。

【平成 25 年３月期通期の見通し】

１．当社グループの受注高につきましては、土木事業は上半期に比べ下半期は橋梁工事の発注量増加が見込まれることから、総合評価入札方式への徹底した対応強化を図るとともに、株式会社シーピーケイを子会社化したことによるマクラギ事業への営業を一層強化します。また、建築事業は回復傾向にあるマンション事業及び政府の推進施策である学校施設や住宅等の耐震補強事業の営業を更に強化することで、不動産賃貸事業を含めた全体としては 208 億円程度を見込んでおります。

２．当社グループの売上高につきましては、株式会社シーピーケイを子会社化したことによるマクラギ事業の売上高は増加する見通しですが、当社個別の繰越工事の減少（前年に比べ 14 億円減少）及び工事進行基準の売上高に影響する土木事業の上半期受注高の低迷（前年に比べ８億円減少）などから、176 億円程度を見込んでおります。

３．当社グループの損益につきましては、当第２四半期は赤字となりましたが、「安全・品質・コスト」の３点を重点項目として工事施工の効率化、原価管理の徹底、施工や生産の省人化・省力化などを一層進めることで、通期は営業利益 180 百万円、経常利益 120 百万円、当期純利益 70 百万円程度を見込んでおります。

平成 25 年３月期 連結業績予想　　（単位：百万円）

項　　目	通期予想
受　注　高	20,800
売　上　高	17,600
営 業 利 益	180
経 常 利 益	120
当期純利益	70

セグメント別	受注高	売上高
土木事業	14,760	12,260
建築事業	5,800	5,100
不動産賃貸事業	240	240
その他	－	－
合　計	20,800	17,600

【参考】

平成 25 年３月期 個別業績予想と前期実績との比較　　（単位：百万円）

項　　目	前期実績	通期予想	増減額	増減率	備考
受　注　高	16,400	20,000	3,600	22.0%	２期連続の増加
売　上　高	17,820	16,800	△1,020	△5.7%	３期連続の減収
営 業 利 益	100	100	△0	△0.1%	２期連続の減益
経 常 利 益	118	60	△58	△49.2%	２期連続の減益
当期純利益	52	10	△42	△80.8%	３期連続の減益